

HGG002-07

会場: 202

時間: 5月25日10:11-10:22

雲南省西双版纳におけるタイ族と霧との関係

A relationship between the Thai race and fog in Xishuangbanna, Yunnan Province

野元 世紀^{1*}

Seiki Nomoto^{1*}

¹岐阜大学

¹Gifu University

雲南省西双版纳におけるタイ族と霧との関係

A relationship between the Thai race and fog in Xishuangbanna, Yunnan Province

#野元世紀 [1]

Seiki Nomoto [1]

[1]岐阜大学・教育

[1]Education, Gifu Univ.

中国雲南省南部、西双版纳は霧州のニックネームをもっている。西双版纳は49の盆地から構成され、大気の安定する乾季には、各盆地で霧が多発する。現在の人口は71万人で、タイ族、漢族、山岳少数民族がそれぞれ約3分の1ずつを占めている。西双版纳は1949年まで、タイ族を中心とした独立国であった。そして、現在でも民族の棲み分けが明瞭で、盆地底や斜面下部にタイ族が居住し、斜面上部には哈尼族、基諾族など、いわゆる山岳少数民族が居住している。

西双版纳の緯度は北緯21-22度である。熱帯に属してはいるが、その北縁に位置し、また盆地底の海拔高度も500mから1200mと高く、冬季（乾季）には気温もかなり低下する。乾季の西双版纳で斜面観測・係留気球観測などの気象観測を行った。その結果、各民族が盆地気候と深い関わりを持っていることが判明した。盆地底では、夕刻より急激な気温低下が起こる。しかし、真夜中には気温低下は停止し、それ以降は若干の気温上昇がみられる。これは霧の発生による潜熱の放出と霧粒の放射によるものである。西双版纳の盆地底では最低気温は23時から1時の間に記録されることが多い。結果として、盆地底の農作物は早朝の低温から身を守ることができる。また、霧は植物に対する乾季の貴重な水源としての役割も持っている。一方、山地民族の集落や焼畑地は、夜間の斜面の温暖帯に立地している。ここは夜間を通して、盆地大気の中で最も高温である。また、霧層よりも上に位置するために、日の出とともに日射を受け取ることができる。長らく、西双版纳では、各民族が局地気候の恩恵を受けながら棲み分けを行ってきた。盆地斜面下部には森林が保存されている。これは霧発生のための水蒸気の供給源として、森林からの蒸散の重要性をタイ族が経験的に認識していたのではないかと考える。1949年以降、漢族の大量入植が起こり、盆地空間での土地利用にも変化が起こっている。そして、霧日数の減少や、雨季後半の降水量の減少などの気候変動が生じている。

キーワード:霧,西双版纳,タイ族,民族の棲み分け

Keywords: fog, Xishuangbanna, the Thai race, segregation of race